

2009年(平成21年)12月5日(土曜日)

オオカミに近寄らサル!?

—新発田・赤谷地区—

これまで烟に近寄らザル。農作物を食い荒らす狼の被害に悩まされている新発田市赤谷地区の住民が、オオカミの尿を使った新作戦に打って出た。容器に入れた尿を烟に設置するもので、弱肉強食の自然界より強い動物のにおいを嫌がる習性を利用。試行実施から1ヶ月「烟に近づかなくなった」(地元住民)と一定の効果を見せた。住民は尿が「特効薬」となるよう期待を寄せている。



尿入り容器設置1ヶ月 「烟被害ゼロ」の効果

農業が主産業の同地区、花火の音で驚かしたり、煙に柵や網を取り付けたりなど、さまざまな撲滅法を受けており、しかも被害は年々悪化。これまでを試してきたが、いずれも効果は一時的なものにどまっていた。

議会(赤谷小学校区連携協議会)(加藤和磨会長)が対策を重視的に協議。そこで、地区の問題解消などを取り組む住民組

県外の獣害対策の専門

家を招いた講演会を開くなど、手塙にかけた農作物を守るために、知恵を絞ってきた。

協議会は、シカやイノシシに効果があるとい

う、米国に生息するハイ

イロオオカミの尿をボトルに詰めた商品に注目。

一方で「狼は学習能

があり、においに慣れるとまた近づいてくるかも

しない。効果がずっと続ければいいが」と心配

オオカミの尿を入れたペットボトルにおいを漂わすため、ボトルには穴を開けた=新発田市赤谷地区

の声も。加藤会長も「これから寒くなり、食べ物がなくなると『背に腹は代えられない』と、再び近づいてくるかもしれない」と警戒している。

単なため、早速輸入業者から購入。被害が大きい10カ所程度を選び10月下旬から、ペットボトルに小分けにした尿を3~6cm間隔で設置した。スイカやトマトなど物全体の1~3割が毎年被害に遭うという。同地区獣友会の佐久間新会長は「独特のにおいて狼は煙にまったく寄りつかなくなつた。今のところ被害はゼロで効果が出ている」と喜ぶ。

一方で「狼は学習能があり、においに慣れるとまた近づいてくるかもしない。効果がずっと続ければいいが」と心配

れから寒くなり、食べ物がなくなると『背に腹は代えられない』と、再び近づいてくるかもしれない」と警戒している。

同協議会では、実験結果を検証した上で尿の使用範囲拡大などを検討していく考え。オオカミの力を借りて、狼との「知恵比べ」に勝つことができるか。